

第20回 篠山再生市民会議 会議録(要旨)

(記録：行政経営課)

日時：平成20年7月17日(木) 13:30~17:20

場所：篠山市立中央図書館

出席者：篠山再生市民会議委員

庁内調整会議職員

傍聴者：なし

会議次第

1 開会

2 協議事項

(1) 篠山再生計画(案)行財政改革編について

(2) 篠山市立中央図書館についての現状及び今後の方向性について

施設内の見学・調査

施設内調査結果を踏まえた質疑

(3) 当面のスケジュール

(4) その他

3 閉会

決定事項等

・次回は篠山再生計画まちづくり編について、事務局から素案を出してもらい、まちづくり編の策定に向けた当会議の協議方法・協議内容について検討する。

議事要旨

2 協議事項

(1) 篠山再生計画(案)行財政改革編について

(事務局)〔資料により説明〕

(議長) 財政収支見直しを見ると、破綻は回避できるが単年度の差引収支赤字が消えるのが平成32年という、息の長い計画である。人件費等の削減計画が答申よりも抑えられていることもあってか、財政再建が達成される時期が4~5年延び、基金も辛うじて残る感じである。124項目全てが実施されることを前提とした綱渡りのような危うい計画だと感じている。

(A委員) 定数について答申では400名を提案したが、計画案では450名が目標となっている。組織で抱えている仕事は無視できないし、単純に職員数を減らすということは難しいと思うが、篠山市と同規模の自治体で職員が400名程度というところもあるのではないかと。それなりに仕事の内容を精査しながら民間委託などもされていると思う。50名の差は大きいのではないかと。

(市長) 435名を目標に考えていたが、この春の508名体制での勤務状況を見ると、ギリギリで取り組んでいる感じである。4月から手が回らなくなった部署があり、2回異動をしている。今から更に減らして行くとして、実現可能なところで当面の目標を450名としている。450名を最終の目標とは思っておらず、できるだけスリム化を図っていきたいが、どこの部署をどう減らすかを考えないといけない。

(A委員) 固定的に縦割りになっている仕事を、横のつながりを活かすように検討してもらいたい。

(副議長) 市税の見込みなど、歳入のシミュレーションはどういう基準で算出しているのか。また、答申に使ったシミュレーションと計画案のシミュレーション

で額が違うのはなぜか。

(事務局) 第1次答申と第2次答申に使用しているシミュレーションはそれほど変わっていないが、今回の計画案で使用したシミュレーションでは、平成19年度の税収が確定したことにより市税が増加している。また、平成19年度の確定額を見据えながら平成20年度の見込みを増やしてスタートさせているが、見通しの最終年の平成32年ではそれほど変わっていない。市税の見通しについては、市民税や固定資産税といった税目ごとに見込みを立てている。固定資産税については3年ごとの評価替えにより家屋の評価が下がる傾向にあり、減額を見込んでいる。個人税は横ばいと見込み、法人税についても高い伸びは見込んでいない。

(副議長) 取り崩し可能な基金とは何か。

(事務局) これまでのシミュレーションでは財政調整基金と、減債基金、地域振興基金の3基金を取り崩していたが、ほかの特定目的基金の中でも条例改正や基金の考え方を整理するなど、市の判断で取り崩しが可能な基金5つをまとめた。

(B委員) 議会でも行財政改革についての特別委員会が設置されたが、計画をもっと厳しくすべきといった意見が出た場合はどうするのか。

(市長) 甘いのではないかという意見が出るかもしれないが、今回出した計画が最低のラインとして取り組み、毎年見直して改革を続けていきたい。

(C委員) 10年間で破綻を回避するシナリオになっているが、これからまちづくり編を検討するにあたり、資金をどうするのか。

(事務局) 現時点では必要最小限の収支を立てているが、毎年見直しをする中、実質公債費比率のピークを過ぎたあたりで、新たに起債をした場合のシミュレーション等を繰り返しながらやっていきたい。収支が改善すれば地域振興基金をまちづくりに活用することもできるし、市所有地の売却など、新たな財源が出てくれば活用も考えていきたい。

(D委員) まちづくり編の話をする中で、今までのようには十分な資金がないので、役所がお金を付けて何かするというのではなく、公民連携のような形で民間の力を引き出す工夫をし、知恵を絞らないと新しい事業展開はできないのではないかと考えている。

(議長) 次回以降も再生計画案行財政改革編についての議論の場を持ち、意見がまとまれば提言をしていきたい。

職員450名体制の話があり、平成25年度以降の体制は未定ということだが、財政収支見通しの平成26年度以降の人件費等は何人で見込んでいるのか。また、450名の計画ができているのであれば、計画案の最終頁にある職員数の推移に、平成22年度から25年度までの見通しを入れてもらいたい。

財政健全化法の4指標について、第3セクターの負債等はないかもしれないが、少なくとも上水道事業があることから、出すべきではないか。

(2) 篠山市立中央図書館についての現状及び今後の方向性について

(館長) [資料1・資料2により説明]

< 施設内調査を実施 >

- (C 委員) 図書館費について、総予算額には他に何が含まれるか。また、全資料費の割合は他の同規模公立図書館と比較して、効率がよいといえるのか。比較できる資料があればもらいたい。
- (館 長) 光熱水費、消耗品費、館管理の委託費等が含まれる。全資料費について同規模図書館と比較すると、平均かそれより若干少ない程度である。
- (E 委員) 市民の利用が積極的な他市町と比べるとどうか。
- (副議長) 雑誌新聞費について、額も種類も多いように感じるが、再生計画案で数千円でも効果額が出るように取り組もうとするときに、雑誌や新聞をあそこまで揃える必要があるのか。
- (F 委員) 蔵書について、購入図書と寄付の割合はいくらぐらいか。寄付を募ればもっと集まるのではないか。
- (館 長) ほとんど購入した図書だが、郷土史料や貴重な図書、篠山にゆかりのある方の本等を寄付いただいている。他にも寄付については申し出があるが、失礼ながら、図書館として有用な本を選定させていただいている。
- (C 委員) 図書や新聞雑誌の選定基準と、購入方法はどうなっているのか。
- (館 長) 図書の選定については、利用者からリクエストがあるほか、新刊案内誌の書評や出版社からの見計らい等から司書が選定しており、図書館納入組合から購入している。
- (C 委員) 視聴覚室はどう活用していく予定か。機器も古くなっているのではないか。
- (館 長) DVDは高価でなかなか購入できないが、視聴覚資料についても民間のレンタルビデオ店には置いていないような、文芸作品などを選定し、徐々に良質の作品を増やしていきたい。視聴覚資料をきっかけとして、活字へ目を向けてもらえるような仕掛けをしていきたい。
- (副議長) 休館日の設定について指針はあるのか。利用者から休館日に関する意見はないのか。
- (館 長) 休館日は図書館条例で定めている。利用者からは祝日開館の要望があり、今年度は試行段階として、14日ある祝日のうち、5月5日、9月23日、11月3日の3日間を開館する。状況を見て、今後の祝日開館を検討していきたい。また、春季の蔵書点検と5月の連休と続くので休館日が多いといわれる。開館時間の延長も要望がある。
- (議 長) 図書館の利用者比率や、蔵書貸出数といった政策目標とその評価はどうなっているのか。
- (館 長) 図書館建設基本計画に目標数値を掲げており、当初は達成していたがそれ以降は頭打ちの状況である。
- (議 長) 開館日数は年間何日を目標にしているのか。
- (館 長) 平成12年度末に年間280日を目標として計画していたが、平成20年度で275

日であり、あと5日足りていない。

- (C委員) 図書の納入方法について定価販売とのことだが、他の方法がないか検討されてはどうか。
また、図書費の1,536万円で購入する本を1冊1,000円の本を購入するとして、15,000冊の図書を整理するのに10名の職員が必要か。限られた予算のなかで、何人で何冊処理する必要があるのか等を厳密に計算し、効率よく運営するしかないのではないか。戦略を立てるための委員会が必要ではないか。
- (議長) 職員10名は常時勤務か。カウンターに2人いたが、他の職員はどのような業務に就いているのか。また、平成19年度と20年度で増減があるが、何故か。
- (館長) 返却図書の整理や新刊図書のデータ入力、会計処理などを行っており、実態としては余裕がある状態ではない。
平成19年度は㈱プロビスに委託していたため、全12名体制としていたが、平成20年度は派遣としたことにより、市の職員とプロビス社員が同じ仕事をして構わないということで、10名体制とした。
- (D委員) 派遣法により3年で雇用義務が発生することなどがあり、それまでの間に直営か、直営と嘱託か、指定管理者かといった運営形態の結論を得ようという、試行期間の状態である。
- (B委員) 利便性の向上と情報の発信という点で、城東・多紀・西紀・今田各公民館、ハートピアセンター、西紀分室に配本所が設けられているが、住民の認知度と利用度はどうか。また、今後、支所・公民館が統廃合された場合、利便性の確保等は検討されているのか。
- (館長) 開館当時から配本所があるが、PR不足ということもあるかと思うが、利用度は頭打ちで、広く認知されていない部分もある。
公民館が統廃合された場合の対応については、できるだけ不便をかけないように早急に検討していきたい。
- (G委員) 他の施設が次々と閉鎖の方向性が出される中、危機感が足りないと感じている。施設維持管理の分科会では、指定管理者制度へ移行だという意見がほとんどであったが、辛うじて今後1年から2年かけて運営体制を検討してもらう方向になったのが現実である。議論の中でも大幅に経費削減すべきだという意見があった。図書館の運営に関して、どういう経過で現状維持が望ましいという意見が出ているのか知りたい。
各データについて、図書館基本計画が元になっているが、基本計画自体が古くて役に立っていないのではないか。図書館協議会や教育委員会、図書館で議論して、図書館のあり方を明確にしながら、評価・検証を繰り返す必要があるのではないか。
- (議長) 図書館については、委員の中でも意見が分かれる中、第二次答申で提言し、市の案でも、運営を見直しながら存続ということになっていると思うが、改革なしで済むとは見ていない。市の最終案が出る前に、前回の提言で十分に触れられなかったような点について、補足的に意見書を出してもいいと考えている。市民全体の意見を反映させるような、協議の場が必要ではないかといったことについても検討していきたい。図書館の問題をどう捉えていくか継続して議論していきたい。

(3) 当面のスケジュール 及び

(4) その他

「篠山再生計画(案)まちづくり編」について

(事務局) 篠山再生計画(案)まちづくり編を策定するにあたり、予定としては、まず行政内部で作業にかかり、8月の再生市民会議にはまちづくり編策定の進め方やスケジュールを示したい。9月に市の計画を提示し、10月の会議で意見をいただきたい。さらに、11月頃には、いただいた意見を踏まえて市で計画案を取りまとめて公表し、パブリックコメント等を経て、来年2月の市政方針に間に合うよう、1月頃にはまちづくり編を策定したい。

(議長) まちづくり編については、再生市民会議でテーマを設定して議論するには広範で、時間的にも困難なので、市から提示される素案について議論していくという形になるだろう。8月の段階では全体像、構成案、目次・章立てに、プラスアルファの中身を出してもらいたい。

(C委員) 財政が厳しい中、お金を使わず、税収を増やして発展、活性化させていく方策について議論できるのではないかな。

(A委員) 市から提示される、素案の元になる案の一覧から、全部はできないかも知れないが、テーマを選択していかざるをえないのではないかな。

(B委員) 住宅開発の計画などがあるが、市民に議論の内容が見えていないのではないかな。

(G委員) 将来の篠山市のビジョンや目標設定が明示されておらず、事業による行き先がわかりにくい。まちづくり編の内容が総合計画でどのように位置づけられるのか、目的地がわからないのでどういう提案ができるかわからない。総合計画の実施計画として位置づけると聞いていたが、どうか。

(D委員) 現在の後期計画の実施計画にあたるということにしていた。人口目標も含めて古びているところもあるので、現総合計画の方向性を踏まえながら、次期総合計画への橋渡しとなるような目標像を書きたいと考えている。

(G委員) 企業誘致の議論をするにしても、前提条件として何のために企業誘致をするのかわかっていないと、やりようがないのではないかな。

(D委員) 新しい方向性が出れば、次の総合計画に生きてくると思う。

(議長) 次回、第21回は8月19日(火)に行い、市から出される再生計画まちづくり編の案を受けて、まちづくり編での協議内容を検討していく。

次期総合計画の策定スケジュールと、再生計画まちづくり編との関連も知りたい。

9月に開催予定だった第22回は10月1日(水)に延期する。

第23回は10月23日(木)に予定通り行う。

- 以上 -